



▲中国で披露する字を練習する山崎さん ▶受賞作品

輝いています

成田山全国競書大会 文部科学大臣賞受賞

ひと

やまざき こね 山崎心寧さん

思いを筆にのせ目指すは頂点



「大きな夢」―。力強さのなかにもしなやかで優しさを感じさせるみごとな書。この作品で小学生から高校生までの国内最大規模の書道展「成田山全国競書大会」で12万7536点の中から最高位の内閣総理大臣賞、蘭亭新屋賞に次ぐ、文部科学大臣賞を今年4月に受賞したのは、中央小学校5年生の山崎心寧さん（10歳・北町1丁目）です。

5歳頃から字が上手に書けた山崎さん。周囲の大人たちが字を褒めてくれるのがうれしくて、書くことが大好きな女の子でした。そんな山崎さ

んが書道を始めたのは小学1年生の頃。母・志乃さんの勧めで市内の小泉書道教室に通い始めると、翌年には県中央展覧会に入選するまでに上達しました。当初は、4歳から続けていて海外の大会に出るほどの腕まえを持つフラダンスとの両立に悩んだことも。それでも好きなものを諦めたくなかった山崎さんが出した結論は「両方がんばる」でした。練習に熱が入り、夜遅くまで筆を執ることもありですが、「好きなことをしているときは疲れません」と、にっこり。

出品課題の字句は自由だった全国競書大会で山崎さんが選んだのが冒頭の四文字です。縦68枚、横17・4枚の紙に「やるからにはその全てで頂点を目指したい」という思いのたけをぶつけた力強い作品は、高い評価につながりました。今回の受賞を受けて、15人の日中友好少年少女書道交流団中国派遣団員の一人として8月には中国を訪問します。「書道の本場での体験を生かして次は一番になりたいです」と、山崎さんは練習に余念がありません。心を込めて丁寧にかかれる書には命が吹き込まれ、「大きな夢」をきつとかなえてくれることでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり



市では昨年協定を結んだ河鍋暁斎記念美術館と連携した取り組みを進めています。今月から同館の展示作品を通して暁斎の魅力を紹介します。

左の作品は「鍾馗之図」です。鍾馗は中国道教の神で、唐の玄宗皇帝の夢に現れて小鬼を退治し、皇帝の病気を癒やしたことから、鍾馗図を門に貼り出して邪鬼悪病除けにするようになったといわれています。日本でも端午の節句には鍾馗の人形や絵を飾って魔を払う風習があり、また、疱瘡（天然痘）除けに赤一色で描く疱瘡絵の画題としてもよく用いられました。こうしたさまざまな鍾馗図を暁斎や暁翠も頼まれて描いています。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「鍾馗之図」

河鍋暁斎記念美術館「四季の祝祭と暦」展 期間＝6月25日(土)まで

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日 毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般320円
中学生～大学生210円
小学生以下105円
(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館 ☎441-9780



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

